



新潮新書

Brevity is the soul of wit,
and tediousness the limbs and outward flourishes.

甲第(34)号証

藪中三十二

YABUNAKA Mitoji

国家の命運

新潮社
390

い原則、勝ちとらなくてはいけないポイントがある。そのときは、「決裂しても、日はまた昇る」くらいの覚悟で、立ち向かわなくてはならないのである。

VI 「51対49」の原則

外交で一方勝ちがダメ、という原則がある。50対50のバランス感覚、ファイフティ・ファイフティが一番良い交渉結果だともいわれる。つまり、一方的にどちらかに分があるようでは、その後の両国関係に支障が出るか、あるいは交渉結果そのものが長持ちしないからだという。

しかし、私はしつくりと来ないものを感じている。やはり交渉ごとは結果が大事であって、そこで少しでも自分に有利な結果を勝ちとる、それが交渉の目的ではないかと思うし、実際、そう考えて外交交渉にたずさわってきた。

だから、できることなら60対40で、こちらに有利になるように考えをめぐらせる。もちろん相手のあることだから、相手方の勢いに押され、うかうかしていると40対60になりそうなこともある。それでも最低限、確保すべきは51対49であり、そこから少しでも

上乘せしていった、60に近づける。これは私の一貫した交渉原則だった。

では、私が参加した様々な外交交渉の評点はどうか。心中、どれだけ結果を残せたか、自問することは少なくないが、自分で答えを出すのはなかなか難しい。

外交というものは、国内から様々な批判を受けるのが普通であり、それに対していちいち反論するつもりはない。ここで述べたように、外交においては相手国との信頼関係が大切であり、交渉段階の一つ一つを、赤裸々に明かすことなどできないからだ。

後になってから、自分だけは正しかったかのように暴露的に語る人もないではないが、交渉の妥当性、結果の評価については、やはり後世の歴史家に判断してもらおうしかない
と私は考えている。

藪中三十二 1948(昭和23)年、大阪府生まれ。外交官。大阪大学法学部を中退し外務省に。北米局課長、アジア大洋州局長、外務審議官などをへて、外務事務次官を2010年に退任。

新潮新書

390

こっか めいうん
国家の命運

著者 やぶなかみせじ
藪中三十二

2010年10月20日 発行

発行者 佐藤隆信

発行所 株式会社新潮社

〒162-8711 東京都新宿区矢来町71番地
編集部(03)3266-5430 読者係(03)3266-5111

<http://www.shinchosha.co.jp>

印刷所 二光印刷株式会社

製本所 株式会社植木製本所

©Mitoji Yabunaka 2010, Printed in Japan

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが
小社読者係宛お送りください。
送料小社負担にてお取替えいたします。

ISBN978-4-10-610390-2 C0231

価格はカバーに表示してあります。